

美しい森林づくり推進国民運動について

経緯

- 19年 2月 9日 閣僚懇談会での総理指示
「政府一体となって『美しい森林づくり』に取り組んでいく必要がある」
- 2月23日 内閣官房長官主催の「美しい森林づくりのための関係閣僚による会合」
- 3月29日 第1回関係省庁連絡会議(議長:内閣官房副長官補)
- 6月 1日 第1回「美しい森林づくり全国推進会議」(代表:出井伸之ソニー(株)最高顧問)の設立
全国推進会議と内閣総理大臣との意見交換会
- 7月 6日 第2回関係省庁連絡会議
- 10月 2日 地球温暖化対策推進本部
「京都議定書目標達成計画の見直しに向けた基本方針」において、森林吸収源対策として「美しい森林づくり推進国民運動」の展開を決定



全国推進会議で挨拶する出井代表

推進体制

美しい森林づくりのための関係閣僚による会合

- 官房長官主催により必要に応じ開催
- 運動の基本方針の決定

政府全体で取組むメッセージを国民に発信

「美しい森林づくり推進国民運動」に関する関係省庁連絡会議

「美しい森林づくり推進国民運動」に関する関係省庁幹事会

- (関係省庁)部
- 内閣官房 ○総務省 ○文科学省
 - 厚生労働省 ○経済産業省
 - 国土交通省 ○環境省 ○農林水産省

美しい森林づくり全国推進会議

- 代表:出井伸之(クオインタムリーブ(株)代表取締役)
- 事務局長:宮林茂幸(東京農業大学教授)
- 設立発起人:134人
- 構成団体:(社)経団連、(社)日本医師会、(財)ボーイスカウト日本連盟など49団体
- ◎企業による森林づくり、森林ボランティア活動、森林環境教育、木づかい運動等をテーマにしたシンポジウムを開催

美しい森林づくり都道府県推進会議

- 地方レベルの産業界、環境団体、教育団体、医療団体、労働団体、NPO等各界の団体により構成
- ◎企業による森林づくり、森林ボランティア活動、森林環境教育、木づかい運動等をテーマにしたシンポジウムを開催

取組状況

◎農林水産省幹部による全国キャラバンの実施

熊本県阿蘇市ほか8都市

◎広報の積極的な展開

- ・全日空全便の機内上映で周知(4月1日~5月31日)
- ・「美しい森林づくりニュース」の配信(森林ボランティア団体等へメール配信:約5万件)
- ・新聞広告(アニメキャラクター“ゲゲゲの鬼太郎”を活用し、読売新聞朝刊全国版(6月1日~6月3日)に広告を掲載)
- ・ホームページ・メールマガジン(政府インターネットテレビで「美しい森林づくり」シリーズを掲載)
- ・メディアミックス(インターネットテレビ3本、パンフレット作成、バナー広告)

◎国民運動の推進

- ・地方推進組織の整備(現在、30道府県において設立を予定)
- ・民間サポーターの募集(企業回りの実施、ダイレクトメールの発出を予定)

運動内容

◎森林所有者に対する取組み

- ・農山村地域での働きかけ(森林組合を中心に、自己所有林の現状把握と具体的施業計画の策定の推進)
- ・不在村者(327万haを所有)に対する「自分の山再発見運動」の呼びかけ

◎幅広い国民の参画

- ・民間企業に対する協力の呼びかけ(社内外ボランティアの森林づくり、自社保有林の整備による森林づくり、基金等を活用した森林づくりの推進)
- ・NPOと連携した取組(森林ボランティア活動への国民参加の呼びかけ、森林環境教育の推進)
- ・農山村住民への働きかけ(里山整備の推進)

◎「木づかい運動」の推進

- ・国産材利用の拡大

3. 国産バイオ燃料の大幅な生産拡大に向けて — 総理報告（工程表）のポイント —

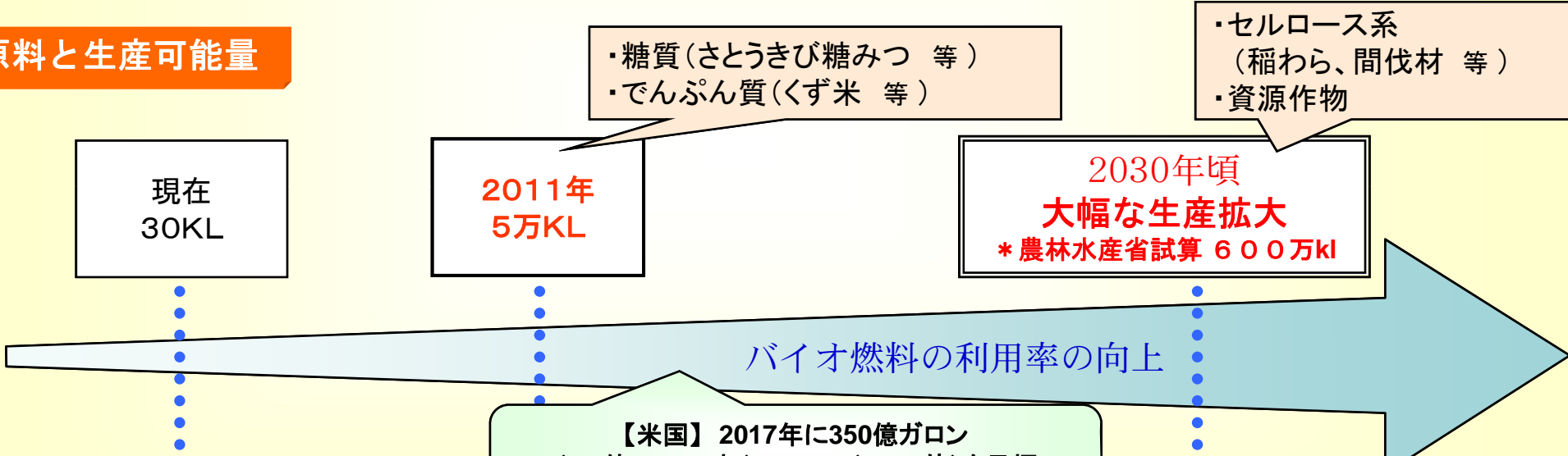
技術開発がなされれば2030年頃には国産バイオ燃料の大幅な生産拡大は可能

技術開発の課題と生産可能量

技術開発

- ① 収集・運搬コストの低減 …………… 山から木を安く下ろす、稲わらを効率よく集める機械等を開発
- ② 資源作物の開発 …………… エタノールを大量に生産できる作物を開発
- ③ エタノール変換効率の向上 …………… 稲わらや間伐材などからエタノールを大量に製造する技術を開発

原料と生産可能量



制度

欧米、ブラジルの制度を踏まえ、国内制度を検討

【米国】2017年に350億ガロン
(1.3億KL、日本(600万KL)の22倍)を目標
〔2007.1 ブッシュ大統領一般教書演説〕

※総理報告は、関係7府省(内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省)により取りまとめ